

劇場・ホールの移動観覧席の利用実態と活用に関する研究

—移動観覧席が200席以上かつ総客席数が約400席以上の公立文化ホールを対象として—

正会員 ○千葉絵里子*
同 堺 皓亮*
同 勝又 英明**劇場 ホール 移動観覧席
公立文化ホール 劇場椅子 平床

1. 研究目的

前報と同様に、移動観覧席に関する調査を行う。本研究では、移動観覧席が200席以上であり総客席数が約400席以上の中規模以上のホールを対象とした調査により現状の把握と分析を行い、移動観覧席の利用実態と活用について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2.1 調査対象

「移動観覧席」を納入しており、総客席数400席以上かつ移動観覧席200席以上のホール221施設を対象に、アンケートを実施した。その結果、136施設(有効回答率62%)から回答を得た。

2.2 研究方法

アンケートは、各劇場のホール管理者に回答してもらう。調査項目は大きく、一般属性・計画時・現在・将来に分類され、移動観覧席の導入理由、意見や評価、今まで行われた演目、稼働率などを聞いた(表1)。なお、このアンケートでの「平床使用」は、移動観覧席を収納した状態、「椅子使用」は、移動観覧席を設置した状態と定義する。

3. 研究結果

3.1 移動観覧席導入提案者、導入理由

移動観覧席の導入提案者は、市の担当者が76%であった。ただし、開館から年月が経っていると必ずしも開館以前のことと分からないと思われるため、「わからない」という回答が多くなり(73件)、実態として導入提案者については明らかではない(図1)。

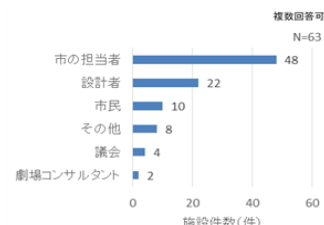


図1 移動観覧席導入提案者

一般属性	名称、回答者、客席数、貸出費用、床の仕様、パトンの配置、舞台の仕様
計画時	導入提案者、導入理由、導入反対意見の有無、反対理由、災害時における想定
現在	反対していた市民等の意見、管理者側の意見、費用対効果、製品満足度、椅子のグレード感、年間稼働率、椅子・平床使用における演目、平常状態、モード変換、不具合
将来	移動観覧席に求めること
その他	移動観覧席についての意見

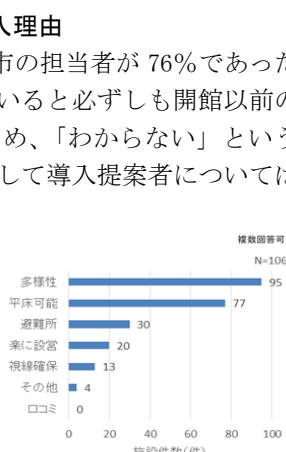


図2 移動観覧席導入理由

移動観覧席の導入理由は、「多様な演目に使える」、「平床にすることにより可能な演目がある」が多かった。

約90%のホールは「多様な演目に使える」を回答していた。また、30件のホールは「避難所、災害時の備品の仕分け場など災害時の対応がしやすい」と回答した(図2)。

3.2 管理者からの移動観覧席への意見

管理者からの移動観覧席への意見として、長所、短所、苦情の有無、製品満足度を聞いた。

移動観覧席の長所は「多様な演目に使える」が92%、「平床にすることにより可能な演目がある」が82%であった(図3)。移動観覧席の導入理由を「避難所・災害時の備品の仕分け場など、災害時の対応がしやすい」と回答したホールは約1/4だったが、長所を「避難所・災害時の備品の仕分け場など、災害時の対応がしやすい」と回答したホールは約1/2であり、平床使用時に避難所・災害時の備品の仕分け場など、災害の対応ができることを評価している結果となった。「その他」には、催事の内容により、設定座席を選択できるという回答があり、移動観覧席の中段使用を評価していた。中段使用とは、全ての移動観覧席を展開するのではなく、舞台側の座席の段数を途中まで展開することである。

一方、短所は「メンテナンス等のコストがかかる」が最も多く、「客席が揺れる」、「通路を歩く時うるさい」が続いた。「メンテナンス等のコストがかかる」と回答したホールは67%であった(図4)。「その他」には、設営に時間が掛かる、移動観覧席は特殊な製品のため、突発的な故障等に対応できない、などがあつた。

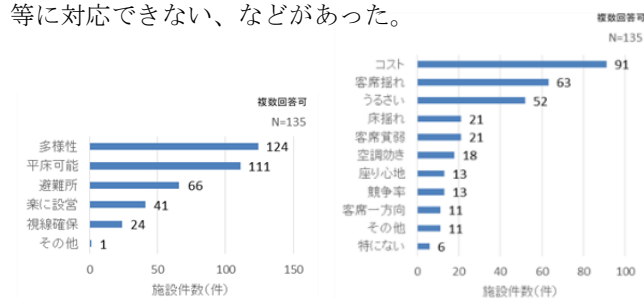


図3 移動観覧席の長所

3.3 椅子使用・平床使用で行われた演目

椅子使用と平床使用の利用状態で今までに行われた全ての演目と主な演目を聞いた。

Research for the actual state of use and the utilization of the movable grandstand at theaters and halls with Public culture halls having more than 200 movable seats and more than 400 total numbers of the seats as a target.

CHIBA eriko, SAKAI kosuke,
KATSUMATA Hideaki

椅子使用で今までに行われた演目は、講演会、ピアノや合唱などのコンサート、演劇、映画、能や落語などの古典芸能が多く、どの演目に関しても半数以上のホールが行ったことがあった。講演会、コンサートは約90%のホールが行ったことがあり、約70%のホールがこの2つの演目を主な演目として回答していた。一方、今までにあまり行われていない演目は、レセプションパーティー、スポーツ、展示、開票所、避難所であった(図5、図6)。「その他」には、研修会、式典、地元の催物などがあつた。

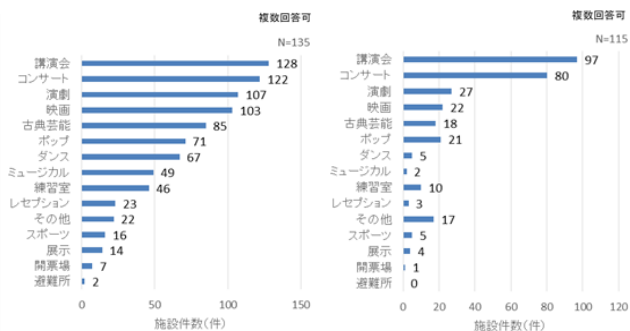


図5 椅子使用の演目(全て) 図6 主な椅子使用の演目

平床使用で今までに行われた演目は、展示、レセプションパーティー、ダンスや演劇等の練習室、スポーツが多く、どの演目に関しても半数以上のホールが行ったことがあつた。展示は約70%のホールが行ったことがあり、約50%のホールが展示を主な演目として回答していた。一方、平床使用で今までにあまり行われていない演目は、コンサート、演劇、避難所、ポップやジャズ、古典芸能、映画、オペラやミュージカルであった(図7、図8)。「その他」には、研修会、式典、会議、健康診断、物販、ワークショップなどがあり、様々な演目が行われていた。

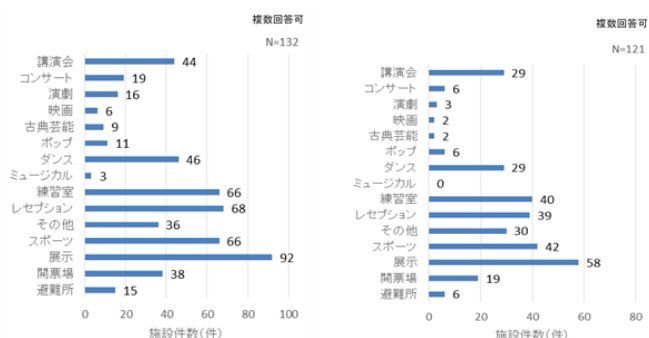


図7 平床使用の演目(全て) 図8 主な椅子使用の演目

椅子使用、平床使用の主な演目をみると、講演会は椅子使用と平床使用で行われているが、ピアノや合唱などのコンサート、演劇、映画、古典芸能、ポップやジャズは椅子使用で行われていることが多く、展示、スポーツ、ダンスや演劇などの練習室、レセプションパーティー、バレエなどのダンスは平床使用で行われていることが多かった。

移動観覧席の椅子使用、平床使用によって、演目に適した会場の設営が行われていると思われる。

3.5 移動観覧席の将来の導入時に求めること

今後、新たに移動観覧席を導入するならば求めること、としては「短時間で簡単に収納・展開できる」、が最も多く、現時点での収納展開の速度に対してさらに短時間で収納展開できることが望まれている。椅子のグレードについては、近年いくつかのホールでほぼ固定席と変わらない品質のものが設置されているが、固定席に比べて椅子のグレード感の落ちるものもあるため、椅子のグレードに対する要望が示されていると思われる(図9)。

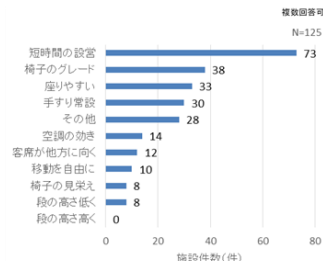


図9 将来の導入時に求めること

4. まとめ

調査結果より、移動観覧席の利用実態と活用に関して明らかになったことを以下にまとめた(表2)。

表2 移動観覧席の利用実態と活用

項目	内容	
一般属性	納入年	1991~2000年:約50%
	舞台形式	プロセニウム形式:約80%、オープン形式:約20%
	客席数	総客席数1000席以下、移動観覧席数800席以下のホール:約80%
	椅子タイプ	タイプS:58%、タイプF:35%、タイプL:5%、タイプP:2%
	舞台の仕様	固定:約90%、可動:約10%
計画時	導入理由	多様な演目が行える
	長所	多様な演目が行える、災害時の対応がしやすい
	短所	コストがかかる、客席が揺れる、通路を歩くときうるさい
	苦情の有無	苦情がないホール:約75%
現在	費用対効果	費用対効果があると感じているホール:約75%
	製品満足度	満足しているホール:約80%
	椅子のグレード感	満足しているホール:約50%
	2014年度の年間稼働率	0~20%:21~40%、41~60%、61~80%:それぞれ約23%、81~100%:約10%
	利用日数のうち椅子使用の割合	椅子使用の割合が0~20%のホール:約40%、椅子使用と平床使用の割合がおおよそ同じホール:約35%、椅子使用の割合が81~100%のホール:約25%
	椅子使用・平床使用で行われた演目	主な椅子使用:講演会、ピアノや合唱などのコンサート 主な平床使用:展示、スポーツ、練習室、レセプションパーティー
	平床使用時の飲食の許可	無条件および条件付きで許可しているホール:約60%
	モード交換	年に1~5回行うホール:約10%、月に1~2回行うホール:約25%、週に1~2回行うホール:約40%、週に3回以上行うホール:約10%
	不具合	階段でつまずき転倒した、何か物が落ちてとれなくなった
	将来	今後求めること

謝辞

調査に協力していただきました、公立文化ホールおよびコトブキキーンテック株式会社の皆様に厚く御礼申し上げます。なお、本調査は松井優果さん、仁井のはらさんとの共同研究です。

参考文献

- 公益社団法人全国公立文化施設協会 平成26年度 全国公立文化施設名簿
- 牧戸奈須加、廣田克彦、幸和紀、勝又英明、田邊健雄:平土間ホール空間に関するアンケートによる実態調査、日本建築学会関東支部 研究報告集、70号、pp.317-320、2000.02
- 勝又英明、西森久和、北村俊也:舞台機構と上演演目の関係に関する考察、平土間ホールの舞台機構に関する研究、日本建築学会関東支部研究報告集、75号、pp.73-76、2005.02
- 幸和紀、屋田幹也、勝又英明、田邊健雄:平土間ホールにおける舞台備品の収納状況に関する事例報告、劇場・ホールの収納空間に関する調査研究、日本建築学会大会(東北)学術講演梗概集、2000号、pp.397-398、2000.07
- 千葉絵里子、塚皓亮、勝又英明、劇場・ホールの移動観覧席の利用実態と活用に関する研究—移動観覧席が200席以上かつ総客席数が約400席以上の公立文化ホールを対象として—2015年度日本建築学会関東支部研究報告書、2016.3

*東京都市大学大学院工学研究科建築学専攻 博士前期課程

**東京都市大学工学部建築学科教授・博士(工学)

* Graduate Student, Graduate School of Eng. Tokyo City Univ.

**Prof, Dept. of Architecture, Tokyo City Univ., Dr. Eng.